

農作物技術情報 第8号 花き

発行日 平成30年10月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ りんどう 残茎処理などの秋じまい管理を遅れないよう行いましょう
- ◆ 小ぎく 計画的な伏せ込み作業により、健全な親株を確保しましょう

りんどう

1 生育概況

現在、極晩生品種の出荷が終盤となっています。気温の低下に伴い、病害虫の発生も少なくなっています。

2 栽培管理

(1) 茎葉の刈払い

刃物を使っての刈払い作業を行う場合は、ウイルス病の感染を防ぐため、完全に枯れてから行います。極晩生品種では、冬まで株元の茎が枯れずに残る場合があります。その際無理して株元から折り取ると株を傷める場合がありますので、枯れた部分までを折り取って翌春に残りの茎を除去します。

また、刈払った茎葉は圃場内に放置せず、必ず圃場外で処分します。

(2) 除草

秋の除草が翌春の雑草の発生程度に大きく影響します。また、除草は害虫の越冬場所を減らすことにもつながりますので、圃場周囲も含めた除草とします。

(3) 株の保護

積雪の少ない地域では、新植圃場や極早生種など根張りの弱い品種に凍寒害対策を行います。管理機で通路の土を越冬芽が隠れる程度に土寄せする方法と、準備した無病の土を越冬芽が隠れる程度株に置く方法(芽土)があります。

(4) 堆肥施用

堆肥の施用時期は、秋と春があります。秋施用の場合、芽土を兼ねて床全面に施用する例がみられますが、この場合必ず完熟したものを用います。施用量は1t/10a程度を目安とします。

(5) 排水対策

雪解け水が圃場内に溜まらないように排水路を確保します。とくに、ハウス栽培では雪解け水がハウス内に浸み込まないように、周囲の排水溝設置やサイドのビニールや畦畔版の埋め込みにより対策します。

3 株更新

安定した収量を確保するためには、計画的な圃場更新を行い健全な株を維持することが重要です。圃場・品種毎の単収に留意し、養成期間を考慮しながら株更新を進めましょう。

来年新植を予定している圃場では、秋のうちに堆肥3～4t/10aを施用し、粗起こしや明渠の整備等を行います。また、土壌診断を行い、施肥設計の準備をしましょう。



写真1 明渠設置事例

小ぎく

1 生育概況

現在、10月咲品種の出荷が終盤となっており、一部地域で栽培されている寒ぎくを除いて間もなく出荷終了となります。

2 栽培管理

(1) 伏せ込み

伏せ込む作業は、11月上旬頃までに行います。株を掘り上げる際、病害虫がいないことを必ず確認します。とくに、本畑で白さび病またはべと病が発生した場合は、細心の注意を払います。

(2) 伏せ込み後の管理

活着までは土壤水分を確保し、夜間低温が予想される場合はトンネルやべたがけで保温します。活着後は、日中ハウスを開放し、夜間は凍らない程度の温度管理とします。かん水は、土の表面が乾いたら行い、極端な乾湿条件とならないよう注意します。

(3) 台刈り

秋冬期高温で経過した場合、株やかき芽伏せ込みでは年内に茎葉が繁茂することがあります。その場合は、12月中旬頃に地際から5～10cmを残して台刈りします。

3 来年の栽培計画

これまでの品種毎の単収、単価、病害虫の発生状況などを考慮し、来年の栽培計画を立てます。とくに、白さび病で毎年苦慮している品種、例年下葉枯れが発生して出荷ロスが多い圃場では、作付け品種の見直しや圃場の変更など、積極的な対策を検討してください。

次号は11月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**農作業 ころのゆとりで
事故防止**

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。